

# 令和元年度学校関係者評価報告書

学校法人Adachi学園  
専門学校東京クールジャパン  
学校関係者評価委員会

専門学校東京クールジャパン 学校関係者評価委員会は『専門学校東京クールジャパン 令和元年度自己評価報告書』に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。（但し、新型コロナウイルス影響下により外部委員の方と一部教職員にはリモートにて参加いただきました。）

## 1. 学校関係者評価委員（リモート参加）

委員	所属等	選任区分等
松田 敏博氏	全国私立通信制高等学校協会前事務局長	有識者・高等学校教頭
藤沢 理子氏	株式会社エッジワークス 取締役	関連分野企業役員
松本 翔吾氏	有限会社ゼクシズ	卒業生・関連分野企業在職
岡崎 千治氏	千駄ヶ谷大通り商店街振興組合 千駄ヶ谷グリーンモール理事	地域関係者・都市計画審議会委員

## 2. 本校出席者

氏名	職務等
後村 幸司	専門学校東京クールジャパン 学校長
野中 智之	事務長
木内 俊文	教務リーダー（リモート参加）
本木 能之	ゲーム総合学科 学科長
武田 浩	アニメ総合学科 学科長
西岡 創	声優学科 学科長
川上 美樹	グローバルキャリアデザインセンター センター長
井上 正樹	ゲーム総合学科 教諭（リモート参加）
前手 俊和	事務局

## 3. 日時・場所

日時：令和2年7月9日(木) 15:00～17:00

会場：専門学校東京クールジャパン 601教室

## 4. 委員会次第

- ・開会
- ・学校長挨拶
- ・参加者紹介
- ・自己評価結果について説明、審議
- ・今後の予定について
- ・意見交換
- ・閉会

以下、基準項目ごとの学校関係者評価・意見

注.

●外部委員からの意見やコメントについては、文頭に●として記した。

○委員からの質問やコメントに対して、学校側からの返答・付随する発言については、文頭に○として記している。

基準1 教育理念・目標

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
1-1	学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2	1
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

日本の「ゲーム」や「アニメ」は長年、海外からも注目されているカルチャーでもあり、一大産業ともなっている。専門学校東京クールジャパンでは、ゲーム業界、アニメ業界・声優業界を担っていく人財育成のため、教育の理念、目的を定めている。

「感動」を『感動』でつなげる学校とは、自分自身がゲームやアニメから受けた感動を忘れずに、今度は他の人のために新しい感動を生み出そうとし続ける人財育成を目指す学校ということであり、それに基づいて最新技術を身に付けながら創造性を高めるカリキュラムを作成している。企業とのつながりの中で業界のニーズもキャッチし、反映している。

②課題

教育理念や目的は、学校案内などのパンフレットやホームページなどで紹介しているが、在校生や保護者に向けた発信は、これだけでは不足しているものにとらえている。在校生や保護者、ほか関係者にとっては、時間割や年間スケジュールなどの情報や、就職実績、就職指導内容などの情報も重要であり、その伝達にも注意を払わなくてはならない現状もある。しかしながら上記のような具体的な情報も、根本にある教育理念を認識してもらうことでより深く理解されるものと思われる。

③今後の改善方策

パンフレットやホームページといった媒体だけでなく、館内の掲示、学生証アプリ（電子学生証）など、日々目にするところへ露出を増やしていく。また教員研修、講師会などの場においても教育理念の重要性を繰り返し確認し、教職員全体が、浸透させていくという目的を共有する。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●特になし

基準2 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1				
	2-6	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
2-7	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2-8	運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
2-9	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
2-10	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
2-11	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
2-12	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
2-13	情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

東京クールジャパンと校名変更して1年が経過し、運営方針やビジョンを元に学生の育成や環境作りが出来た年になったと思われる。情報公開の点について、自己評価や財務資料などをホームページ上でも閲覧可能にし、順次対応を進めている。

②課題

先述の通り、情勢の変化に対応しながらの運営を行っているため、定着するまでには今しばらくの時間が必要である。その中でAO2.5教育、業界EXPOといった学園独自の改革も芽を出し始めている。昨年度課題であった情報公開については整備を進めながら、ホームページへの掲載を随時行っている。校名・分野変更し1年間を経過し、教育内容・業界との連携にも着手してきつつあるが、本格的な成果を伴った教育活動や実績形成までには至っていないのが課題。コンプライアンス体制、マニュアル化、学生管理システム等は、学園全体が組織改編を含め改革途上であり、現状は複数のデジタルシステムと、出席簿などの手書きのシステムとが混在しつつも徐々に変化してきている状態である。

③今後の改善方策

現在進行中の組織体制の確立し、システムの更新、情報の整備、Web公開化のなどがスムーズに進行していくことで、学校現場においても順次状況は改善されていくものと考えている。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●校名変更に加え学科・専攻の整備、業界EXPOなど専門学校としての体制やシステム面などからも、卒業生を輩出している業界にとって有益かつ貢献できる人財を供給していることが伺える。

また前年度の課題とした「保護者へのアピール」については、成績表や行事変更案内など改善しつつも今後とも継続的に取り組むべきものとする。

基準3 教育活動

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
3-14	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
3-19	関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-22	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-23	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
3-25	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

各業界への就職・デビューを念頭に置き、実習・実技を中心としたカリキュラム編成とするための会議を行っており授業への反映を行ってきた。  
 企業や法人契約の講師を含めて関連分野の指導が可能な講師を有している。  
 成績・単位の評価基準は学生に対して明文化されており、年間2回の「スチューデントエコー」という学生からの授業評価も実施している。  
 職員の研修は年に1度、姉妹校全体で設定されている。

②課題

教育課程編成委員会の設置により、業界関係者や講師陣からのカリキュラムに対するアドバイスを受ける体制が整備され教育活動に反映できる環境が整いつつある。それに基づき、産学連携など企業との提携についてもっと広げるための活動を行っている状況である。

また、各分野の先端知識や技能を取り入れるための研修は体系的に実施できておらず来季の課題とした。

③今後の改善方策

職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れるための枠組みについては本年において教育課程編成委員を組織し、スタートすることができた。

指導力向上のための取り組みに関しても同様であり、複数年にわたる教育スキルの向上のための研修計画を立案し実施するとともに、関連する教育分野については、絶えず進化・発展を続ける業界の動向や現在に則したスキルにアンテナを張って、最新の技術を学び・教授できるよう意識向上を計る。

またそのためにも、研修会等への参加を体系化し教職員の指導力や技術向上を促していく。

また、常勤教員のみならず、兼務教員との協力体制や企業と連携した学内での講習会などの機会を持つことも検討する。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●授業を担当している各業界の現役の教員がいることは、僕が学生だった当時から、素晴らしいことだなと感じている。

ただそれだけではなく、しっかり外からの意見を取り入れる体制も取っていて、年々学ぶ環境作りの改善がされていることを感じた。

○学校として現状一旦は、業界と連携した実践的な授業の為の講師導入やカリキュラム編成は構築したと考える。(ゲームはゲームショー・アニメはキャラバン上映会・声優はスーパーオーディション等) 今後は、学生を売り出す為(就職・デビュー)のコンテンツ構築が必要と考えている。その為にも我々指導者側が、業界のニーズや動向把握しつつ意識・技術の向上に努め現状のカリキュラムをブラッシュアップし続けることが必要であり、そしてそれを体系的に実践していく組織とすることを目指していく。

基準4 教育成果

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
4-28	就職率の向上がはかられているか	4	3	2	1
4-29	資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
4-30	退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

就職活動にあたっては学生に事前・事後の報告を求めており、毎月アンケートをデータで回収、適宜フォローに努める。キャリアサポートセンターと担任間で連携し、活動進捗の把握、それに伴い、作品集のチェックを行うことで活動の第一歩でもある応募へと促している。

学内説明会や卒業生講演会、ポートフォリオ展開催など学生と業界を直接コミュニケーションがとれる機会の創出を施策としている。

求人情報については就職活動用Gmailアドレス以外に、LINE、WeChatの運用も行い、随時提供を行うと共に掲示板や授業内で紹介、作品展開催や毎週学内で企業説明会を実施するなどタイムリーに情報伝達することに努めてきた。また卒業後に歩む人生の中で必要になる社会人として必要な知識等についても専門分野の講師を招き教育活動の一環としておこなうことで健全に社会生活を送れる準備のサポートを行っている。

②課題

校友会組織の目立った活動実績がなく、引続き今後の課題となる。

退学者対策としては、奨学金制度等の経済的支援の対策を講じているが、授業に支障の少ない業界に近い分野でのアルバイトの求人獲得も行っていく必要がある。

また一部授業に語学サポートとして留学生担当が入り講師と学生間のコミュニケーションをフォローすることで、修学意欲の低下している学生に対して早期の対応が可能としている。しかしながら中間層以上の引き上げには至っておらず、優れた人材の育成の輩出への貢献に注力せねばならない。

国籍問わず心理面での問題を抱える学生に対して、対面、オンラインでの個別での専門家、担任、副担任によるカウンセリングの質の向上と量的確保の両方が必要。

③今後の改善方策

卒業生の入社後の状況把握のため、グローバル・キャリアデザインセンターと学務が連携して会社訪問や業界者による勉強会を通して現場の声を拾いあげると共に、求人情報の収集、キャリア形成に必要な情報を入手し学生指導及びカリキュラムに反映していく。

学生の抱える心理面の問題解決及び理解のため、グローバル・キャリアデザインセンター、留学生担当職員は半年かけて、月1回様々なテーマの講習を受講したが、今後も継続していく方向で調整していく。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●退学へのステップがあると思うが、早い段階でのケアが有効と考える。

人間関係、授業の進度についていけないなど、様々な理由があると思うが、個人的にはステップごとのアプローチ方法についてノウハウをためる必要があると感じている。

卒業生の動向把握は、同窓会や交流会などあってもよいと思う。現在いろいろな学校でホームカミングデイを行っているが、在校生への刺激にもなるし、ホットな業界情報も入手できる良い機会になると思う。検討して欲しい。

●個人的な感想ではあるが、最近業界に入ってくる子達は下積み期間の仕事の知識や、そもそもの仕事の厳しさに対する認識が甘い若者が増えているように感じている。入社早々の段階で挫折して辞めてしまい、就職経験が少ないままフリーとなり、変な仕事をしている人を何回も見てきた。このような不安定な層が、各業界のレベルを落としている理由にもなっていると思う。そのような悪循環防止の為に研修期間に関する教育があってもいいのかなと思った。

また、自分の好きな分野の作品にしか触れていない若手が多いと思う。映画など高品質の作品を見る機会が少ないのか、画面の構成力が弱く感じる。基礎が出来ていないままイラストや漫画的な絵を描く人が多い印象である。

ポートフォリオについても、会社が求めているレイアウトと躍動感のある絵を盛り込むように指導して欲しい。

基準5 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	5-33 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
5-34 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
5-35 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-36 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
5-37 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-38 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
5-39 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-40 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-41 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-42 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか？	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

入学後、オリエンテーションを実施、学生生活全般、学習への取組及び履修について指導を行っている。  
 キャリアサポートセンターが主体となり毎年姉妹校合同で企業説明会の業界EXPO（500社）を実施、企業就職だけではなくフリーランスとしての活動の幅も提言、企業からの相談、助言機会の拡充など学内外の相談体制の充実を図っている。学生募集活動の観点からも環境設備に関しては積極的に投資しており、業界動向を意識した教育設備の充実を継続していく。また、法令に基いた健康診断の実施や感染症流行時の注意喚起は随時行っている。日常的なケガや具合の悪くなった学生の対応は保健室で処置を行っている。  
 遠方からの学生には学生寮、学生マンションを運営している企業と提携して便宜を図り、学費面では、奨学金・特待生・学費分納などを踏まえ、就学継続を第一に事務局と担任が連携して相談に応じている。併せて本年度から修学支援新制度の対象校として更に支援の幅を広げている。  
 また高等学校とは職業教育の取組の一環として特別カリキュラムを設定、講師を派遣している。

②課題

専門のカウンセラーによるカウンセリングの学生への周知と利用促進により、支援の裾野を広げることで結果的に教育効果へと繋げていきたい。  
 インターンシップや産学連携は、結果的に自主的学習環境の機会の提供にもなることから、これまで以上に活発化させたい。

③今後の改善方策

修学や就職意識のモチベーションについては家庭環境や保護者への働き掛けも必要であり、入学前から保護者への対応は積極的に情報開示して対応していく。  
 成績表等の保護者への送付、卒業制作展・学園祭の案内だけでなく、3月ポートフォリオ展は保護者専用時間帯を設けるなど情報提供や意見交換の機会を設けた。業界的にも通年採用も増加傾向にあり、タイムリーな情報提供がキーとなる。卒業生の動向把握、それによりキャリアのある卒業生の人材紹介等も同様に行う事が可能となり、企業との関係性をより強固なものに出来ると考えている。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

- 学生たちは、自分が抱える不安を相談するという経験が少ないと思う。『相談窓口』を用意しても利用しない可能性が高く、抱え込んでしまうのではないかと感じる。難しいとは思いますが、先生ではないチューターのような役割も有効だと感じる。  
 また、学生自身が抱えている問題や悩みは、相談するに値することだと気づかせるために、相談を受ける内容を具体的に説明してあげるほうが良い。

基準6 教育環境

評価項目		適切・・・4	ほぼ適切・・・3	やや不適切・・・2	不適切・・・1
6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-45	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

PCの定期的な更新やメンテナンス、機材・設備の追加など、学生が授業を受ける上で必要な環境については問題は無く実施している。

インターンシップについても学務とグローバルキャリアデザインセンターで連携をし、積極的なバックアップも行っている。その為にも実施の手続きや企業との連携、報告などを徹底している。

平成26年耐震補強工事完了、緊急地震速報（校内放送）のシステムも完備。今年度には校舎周りに防犯カメラを設置し、不審者の侵入や夜間の防犯への対応を強化させた。

入学時に配布している学生手引き書（学習案内）に、災害対応、緊急避難先など記載しオリエンテーションで説明に加え電子学生証アプリにテキスト・マップを実装した。

備蓄品として保存水、乾パン・クッキー、防災シート、簡易トイレなどを備えている。

②課題

環境や研修に関するサポートは概ね形にはなっている。学生のインターンシップや研修については動きが激しいこともあるため、報告など随時確認できるよう引き続き連携していく。

今年度は、一時避難場所としていた東京体育館が工事が今年度初旬に完了予定の為、管轄部署の方々とも連携を図り防災訓練を実施する。

また、学内安全計画の策定とマニュアルの整備が当面の課題である。

備蓄品においては、前年度より引き続き在庫の確認・賞味期限のチェックなど装備品の棚卸しや管理とマニュアル化を図る。

③今後の改善方策

企業や業界のカンファレンスやコンペなどを実施する団体や企業も増えてきているため、学生へのサポートを含めインフォメーションを続けていく。

防災面では、増えている留学生に対して、教職員にも外国籍のスタッフを配置しているが、緊急時に不安を解消できるまでのフォローを行えるよう防災訓練とマニュアル整備の方向性を検討する

備蓄品はスペースの問題より、前年度の課題を解決できておらず地下の1カ所での管理している状態である。各フロアにスペースを確保し、分散して配置・管理方法の確立が必要。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●高性能なPCと充実したソフト、液晶タブレットや音響の環境も年々新しくなっていて、以前に教室環境を見学した際にもとても充実していると感じ好印象を持った。

ただ、懸念としてはあまりにも機材が揃っているので、それが就職先の全ての会社で当たり前用意されているものと誤解のないように指導が必要かと思う。最新の機材が無くても各仕事に求められる対応力がある、基礎表現力がある学生が増えてくれると嬉しく思う。

基準7 学生の受け入れ募集

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
7-46	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
7-47	学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
7-48	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

専属の広報スタッフと、教員とが協力体制を取り、体験入学などの学生募集活動を行っている。教員も率先して取り組むことで、専門学校東京クールジャパンが確立している教育制度「AO2.5教育」（AO入学予定者に対する入学前授業）などの情報がより具体的に伝わり、入学後のミスマッチの防止だけでなく、早期の就職活動準備につながっている。高校生の進路決定の早期化にあわせて、オープンキャンパスも高校1、2年へ門戸を開いているが、AO入学の受付、出願の受付は、東京都の規定に従い、入学前年の6/1～、8/1～を遵守している。学納金については、物価変動もある中で10年以上据え置いた状態である。

②課題

上記の内容を踏まえて今年度は高校1、2年時に支持していただき、高校からの新卒生の入学が増加した。「AO2.5年教育制度」が保護者の方々に理解していただいたことも結果に大きくつながっていると考えている。

③今後の改善方策

新卒、保護者への周知などうまく展開できた一方、今後は、高校の範囲を拡げ、先生や進路指導教員にも支持いただくための活動が必要と感じている。

何校かと取り組みを進めている特別授業や出張授業について、今後も継続しつつ学校の認知を広めていく。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●特になし

基準8 財務

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
8-49	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
8-50	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
8-51	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
8-52	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

財務基盤となる学生募集への取り組みは、教職員全体で行っており、入学者は定員充足率をクリアしている。予算・収支計画については、学内の運営会議において議論を重ねたうえで決定している。また、予算の執行においても稟議申請、発注申請を上げ、承認を得てから実施することが定着してきている。毎年の会計監査は適正に行われている。財務情報公開は学園のWebサイトにおいて公表されている。

②課題

特になし

③今後の改善方策

特になし

基準ごとの学校関係者評価・コメント

- 定員充足率はおおむね順調に推移しており安定していると言える。毎年の会計監査の結果も、公表されており特に問題はない。

基準9 法令等の遵守

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
9-53	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
9-54	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-55	自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
9-56	自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

法令、専修学校設置基準等の遵守は、施設、教員数、カリキュラムの整備など徹底している。年度中に東京都などによる留学生調査において指摘を受けたが、すでに改善に取り組み、報告も受理されている。個人情報保護について、教職員、非常勤講師に対してマニュアルを利用して指導をしており、意識的に漏洩が発生するなどのことは起きていない。しかしながら施設内部においては紙媒体の管理など、完全に徹底しきれていない面もあるため、より理解を深める必要がある。PC、ネットワークのウイルス対策、管理システムは学園全体で導入されたため、強化は図られているが、その理解を深める必要がある。自己評価の実施、問題点の改善は取り組んでおり、学校のWebサイトにおいても結果を公表している。

②課題

個人情報の保護において、紙媒体など、より管理を徹底すべき点がある。学生への連絡手段が多様化しているため、マニュアルなどの更新も必要としている。

③今後の改善方策

PC、ネットワークの管理システムは導入されているが、教職員にその理解を浸透させる必要がある。また、学生への連絡手段も多様化しており、意図せぬ漏洩が発生しないよう注意喚起する。

施設内における紙媒体の管理についても、整理、収納を徹底するよう共有していく。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●法令順守して運営している。専門学校設置基準に基づき分野変更、新年度学則変更も認可されている。情報公開も進捗し、高等教育就学支援に関する要件を満たしており、いわゆる無償化の対象校として認められている。

基準10 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2	1
10-58	学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
10-59	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

学校の所在地となる千駄ヶ谷商店街商工会に所属しており、夏祭り際には学生によるボランティアを兼ねた模擬店の運営などを引き受けているほか、ショップCMの制作、地域のPRのためのデザインコンペへの在学生の参加など地元自治体と密接に関わりを持っている。

平成30年度より産学協同の一環で渋谷税務署から確定申告PRのためのアニメーション制作を受諾。

令和元年にはJR千駄ヶ谷駅からの依頼をもとに、オリンピック会場となる新国立競技場へ訪れる来場者も含めた観光客へ向けて地域の散策マップ映像を制作し、千駄ヶ谷駅構内にて公開した。

令和2年2月には港区スポーツふれあい健康文化財団イベント内で声優ワークショップを実施した。

②課題

現状での地域貢献は十分になされているが、学校の特色を上手く利用した案件が中心となっている。

地域に対する教育訓練は教育イベントとして地方でのワークショップなども毎年実施しているが、学園祭などのイベント時には地域住民の来場は少ないため、学校の一般開放日にワークショップを実施するなどの交流も検討する。同時に在校生に対してのセキュリティの強化なども必要に応じて行っていく。

③今後の改善方策

都内の高等学校からの要望に応じて、本校の有する分野での専門技術の指導をスタートしている。高校生たちの興味の強い分野でもあることから進路検討の一助となることが考えられるため、地元自治体以外の広範囲にわたっての貢献を進めて行く。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●昨年までは、多くの教職員の方々や学生の協力を頂きながら、イベント等を運営してきた成果として、貴校の存在が地元コミュニティの中で、確固たる存在として認識されたと感じている。

一方で、学校主催の行事となると、専門的な知識を有していなければ遊びに行き辛いというイメージもあり、学園祭などにもあまり地元の方々の参加が無いのが現状である。

地域のコミュニティが高齢層に偏っていることも1つの原因ではありますが、今回のコロナ禍による自粛期間が、もっと若い年齢層の繋がりを育む機会ともなりましたので、その様な新しいコミュニティの中で、貴校の存在をアピールして行こうと思っている。そうすれば、もっと貴校との交流が活発になると考えられる。ぜひ協力の程、宜しくお願ひしたい。

○今回のコロナ問題でも街や商店街の方々のご尽力でオンライン盆踊りなどNHKでも取り上げられていました。我々教育産業でも工夫をしていろんな形でもっと臨機応変に交流を図る考え方をもっていきたいと感じた次第である。

基準11 国際交流

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
11-60	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2	1
11-61	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
11-62	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-63	学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

留学生の受け入れは学園本部（国際部）と本校の留学生担当が定期的なミーティングを行っており入国管理局への報告も徹底、適正校として認定されている。またその連携は募集活動においてもあり、動画配信アプリ等の活用を行い在学学生・卒業生の活動の配信まで及んでおり情報発信の幅は拡大傾向にある。

また、姉妹校の日本語学校との連携では、日本語授業に必要な課題や動画の提供もあり、進学後も安定した日本語の学びが出来るようになった。

日本語学校訪問や学校視察・見学の受け入れのほか、教員が日本語学校に出向いて専門分野の授業を行う活動も積極的に実施している。

入学後は留学生オリエンテーションを実施、マニュアルを配布の上、学修やビザに関する諸手続き、学生生活全般のほか法令遵守の立場からも周知をおこなっており、それらは多言語展開も行い理解を深めている。しかし、入学前授業や入学後の教育イベントへの出席率の低さの改善は必要であり、現実的に日本での就業に対しての目標設定や将来像をより描く事ができるような施策は必要である。

②課題

学費延滞や出席不良を未然に防ぐために、LINEやWeChat等のSNSを活用し、個々の事情の把握や対応に努めている。授業内で学費など費用面での説明を行うなど積極的に組織として取り組んでいるものの、根本的な問題は入学時のしっかりとした進路相談、面談に尽きると思う。その為、面接の際に利用している面接シートや入学願書の改定を行い、ミスマッチや学業への真摯な取り組みについても自覚を持っていただくように更に努める事が必要だと感じている。

③今後の改善方策

令和元年度よりグローバル・キャリアデザインセンターを設置し、学科ごとに留学生担当を配置した。

募集活動から入学後の在籍管理・出席管理、進路相談、国内及び帰国後の活躍の情報収集ができる体制を整えたことは業務効率的にも成果の1つでもあり機能している。

しかしながら、フォローアップが必要な層の学生に必要以上に時間をかけてしまう傾向があり、改善すべき点は多くある。潜在的な問題解決には至っていない。また、国内外の卒業生の活躍については業務上、年度内実施が出来ず達成が出来なかった。今年度はまず、卒業生在籍企業への企業訪問を中心に行う予定である。

基準ごとの学校関係者評価・コメント

●貴校の外国籍の学生さんとお仕事させていただいたことがありますが、とても熱心でよい印象を持っていることはお伝えさせていただく。

## 5. 評価項目の達成及び取組状況と総合評価

全63項目中、「適切」…42、「ほぼ適切」…21、「やや不適切」…0、「不適切」…0であった。

前年度「やや不適切」とした4項目（情報公開・自己評価×2・外部評価）については、すべて改善した。（「ほぼ適切」×2・「適切」×2）

内訳としても、「適切」が+11項目、「ほぼ適切」への改善+2項目と良い評価としている。

総合評価としては、おおむね適切に学校運営ができていると言える。社会の変化に対応しつつ教育目標の達成をするための新たな活動や人員増強などの改善プランも的を射たものになっている。

さらに入学定員の充足や財務についても現状としてはバランスが取れており、安定した学校運営をしつつ改善の余力も出せるものと考えている。

## 総評

第2回目の学校関係者評価委員会ということではあったが、外部委員の方々、学内委員ともに話の内容の節々に現状のコロナ対策下での話題と今後の対応についてが主な焦点となり、業界側の意見や求める人材・身に着けるべきスキルなど、前回に増して細やかなご指摘をいただくことができた場となった。

そうした中で、地元商店街の委員の方よりいただいた言葉、『コロナ状況下で何ができて何ができないのかを常に考えながら、新しい生活&商環境を築いていく必要に迫られている。その状況下で今後ネットの活用・オンラインの繋がりを重視しつつも同じ千駄ヶ谷に根差す仲間として、まちの資産としての東京クールジャパン』として応えることができるよう、委員の方々よりいただいた様々な意見を踏まえ、より業界のニーズに沿った実践的な教育と学校運営を実現すべく、教職員一同の努力が必要であると感じる委員会となった。